

〔新撰字鏡水灘〕作單和太世○反平

〔倭訓栞前編四十〕わたせ 渡り瀬の義也、歌にもよめり、新撰字鏡に灘をよめり、又かはらぐせともよめり、

〔延喜式雜五十〕凡山城國泉河樺井渡瀬者、官長率東大寺工等、毎年九月上旬造假橋、

〔堀河院御時百首和歌秋霧〕

阿闍梨傳燈大法師隆源

川ぎりにわたせもみえず遠近の岸に舟よぶ聲ばかりして

〔夫木和歌抄二十四〕弘安百首

常磐井入道太政大臣

かち人のわたせの波も道たえてにふのかはらの五月雨の比

〔秋の寢覺渡〕夫木わたせわだり

〔藻鹽草五水邊〕渡

わたるせ。

〔萬葉集十七〕婦負郡○越渡鷲坂河邊時作歌一首

宇佐可河泊、和多流瀨於保美、許乃安我馬乃安我枳乃美豆爾伎奴奴禮爾家里、

〔後撰和歌集十九〕ある人いやしき名とりて、遠江國へまかるとて、はつせ川を渡るとてよみ侍り

ける、

はつせ川渡る瀬さへや濁るらんよにすみ難き我身と思へば

讀人矣らず

〔萬葉集十〕雜歌七夕

天漢去歲渡伐遷閉者、河瀬於踏夜深去來、

〔萬葉集略解十上〕わたりばのばは、場の意也、

〔利根川圖志二〕利根川の全流、凡七十餘里、○中 武藏國葛飾郡栗橋御關所の前に至て、官渡あり、房